

令和7年度 第3回羽島市地域公共交通協議会 議事録

日 時	令和8年1月20日(火) 午後2時00分から午後3時00分まで		
場 所	羽島市役所3階 301会議室		
出席者	会長代理	生活環境部長	加藤 光彦
	副会長	(大)東海国立大学機構岐阜大学地域科学部地域政策学科教授	應 江黔
	委員	名阪近鉄バス(株)乗合バス営業部長	山田 規光久
	委員	スイトトラベル(株)自家用管理部長	西川 勝則
	委員	東海旅客鉄道(株)岐阜羽島駅長	解良 祐一郎
	委員	名古屋鉄道(株)部地域連携部交通サービス担当課長	高井 勇輔
			(代理出席:夫馬 康昌)
	委員	岐阜県バス協会専務理事	木村 治史
			(代理出席:中島 喜久夫)
	委員	名阪近鉄バス労働組合執行委員長	加藤 浩司
			(代理出席:佐竹 達也)
	委員	羽島市自治委員会理事	今井田 清一
	委員	羽島市老人クラブ連合会女性部長	村上 由紀子
	委員	公募委員	植村 佳代
	委員	公募委員	豊島 裕香
	委員	岐阜運輸支局首席運輸企画専門官	下平 真一郎
	委員	岐阜羽島警察署交通課長	柘植 清一
	委員	岐阜県都市建築部都市公園・交通局 公共交通課	大脇 哲也
			(代理出席:市橋 ますみ)
	委員	羽島市健幸福祉部長	三輪 弘司
委員	羽島市建設部長	藤井 義郎	
事務局	生活安全課長	鈴木 巨祥	
事務局	同課主幹	中島 丈誠	
事務局	同課係長	清水 孝明	

要 旨	<p>1 開会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>3 協議事項 議第1号 地域公共交通確保維持計画に関する自己評価について</p> <p>4 報告事項 報第1号 コミュニティバスの利用状況について</p> <p>(事務局) コミュニティバスの利用状況について説明(資料3) 地域公共交通確保維持計画に関する自己評価(中部様式)について(資料1)、地域公共交通確保維持計画に関する自己評価(国交省様式)について(資料2)を説明</p> <p>(委員) 運行赤字を補填する国の補助金を支払う自治体に対して、年に一回取り組みについて振り返ってもらうように作成をお願いしている資料になる。羽島温泉の休館日数が多かったことや人口減少により利用が下がるトレンドにあるところ、いろいろな取り組みによって何とか食い止めていると説明があったが、今年度実施した夏休みの小中学生の運賃無料の施策や、高齢者向けの乗車体験会について、参加者から何か反応があったか。</p> <p>(事務局) 夏休みの小中学生無料の効果については、前年度に同様の取組を実施していないため、前年比で増減を比較する材料がなく、今後の継続実施の中で動向を把握したい。単年度の傾向をみたところでは、中学生の利用が多かったため、今後の啓発や利用促進の進め方も含め、来年度以降も継続して検討していきたい。</p> <p>(委員) 高齢者の乗車体験については、老人クラブの会員と話をする中で、多くの方がこれまでバスに乗ったことがなく、乗り方も分からないという状況であった。そこで市役所に相談し、出前講座を実施してもらったところ、分かりやすい説明を受け、ぜひバスに乗ってみたいという声が上がった。行き先について意見を出し合い、温泉や買い物、モーニングなど複数案の中から、最終的に13名でモーニングに出かけたが、小旅行のような感覚で非常に楽しい体験となった。100円バスも、移動手段としてだけでなく、楽しみながら利用する形があってもよいと感じている。</p> <p>(事務局) 今後は、高齢者向けの出前講座について、老人クラブを対象に、複数の外出パターンを示しながら、地域別のお出かけマップを継続して作成していく。これらを活用し、さまざまな形でバス乗車のきっかけとなるよう、PR活動を今後も継続していきたい。</p>
-----	---

(委員)

全体を通して見ると、温泉や商業施設などは利用実績のベースが上がっている。先ほどの老人クラブのお話にもあった通り、施設との啓発連携ができると活性化できると考える。

また、全国的な課題ではあるが、運転手の人手不足、交通業界とか物流とか、本当に深刻になっている。身近ではコミュニティバスや福祉バスなど羽島市に限らず影響が出ているところが増えている。今までの方法で解決できる部分と、将来的には公共ライドシェアなど、長期的には視野に入れていくべきかと思う。

(地域公共交通確保維持計画に関する自己評価について承認された)

## 5 その他

(名古屋鉄道 夫馬委員代理)

現在、小児用 manaca の利用に応じてマイレージポイントを還元する「こども manaca お出かけキャンペーン第 3 弾」を実施している。中京圏は公共交通分担率が関東や関西に比べ非常に低いことから、幼少期からお出かけの際に公共交通に慣れ親しんでいただくきっかけになればと考えている。

2 点目に、3 月 14 日にダイヤ改正を予定しており、竹鼻線・羽島線（笠松～新羽島間）では、ワンマン運転の開始や、利用状況に応じた運行本数の見直しを予定している。1 月 26 日に対外的にリリースする予定のため、それまでは情報の取扱いに留意していただきたい。

(東海旅客鉄道 解良委員)

東海道新幹線についても、3 月 14 日にダイヤ改正を予定している。

(委員)

コミュニティバスのダイヤは、電車との接続も考慮して設定されている。竹鼻線との乗り継ぎができるように、ダイヤ改正にあわせてコミュニティバス側もダイヤ調整を行わないと、利用者が離れてしまう可能性があるため、引き続き連携して対応してほしい。

(事務局)

特に南部線は、竹鼻線廃止区間の代替バスとして名鉄に接続するダイヤとしていいる。名鉄の見直しにより接続に影響が生じる場合は南部線のダイヤ調整を行う可能性があるため、確認の上、改めて報告する。

(事務局)

今回は、2 月 26 日 14 時からコミュニティバスの路線再編に関する協議を行うため、公共交通会議の開催を予定している。

## 6 閉会

以上